

『TeamViewer』リモートアクセスと拡張現実サポートが Slack プラットフォームで利用可能に AR などの先進技術で、リモートワークのチーム・コラボレーションを支援

【2022年11月18日】リモート接続ソリューションのグローバルリーダーである TeamViewer (以下、チームビューワー、当社) は、本日、チーム作業に不可欠なコラボレーション・プラットフォームである Slack との機能連携を発表しました。これにより、ユーザーは Slack の環境内からウェブ・ベースの『TeamViewer』のリモートアクセスおよび拡張現実 (AR) サポート・セッションを開始することが可能になります。

Slack には、リモートで働くチームが仕事をする上で活用できる様々なツールや機能が含まれています。この度、ユーザーは、Slack のアプリ・ディレクトリから『TeamViewer』のアプリをダウンロードすることで、『TeamViewer』の機能を Slack の環境にシームレスに連携させることができるようになりました。この新しい機能連携により、リモートコントロールのためのセッション招待やモバイルデバイスへの AR 接続を Slack のダイレクトメッセージやグループチャンネルで直接共有し、より効率的にコラボレーションやサポートすることができます。AR 接続の追加は、物理的な作業が必要な場合に特に有効です。ユーザーは共有されたビデオフィードを使用して、実際の作業を確認しながらコラボレーションすることが可能になります。音声接続に加えて、遠隔で相手の視野の中で「仮想的に」特定したい場所を指したり、ペンやマーカーで描きながら何をすべきかを詳細に示すことができるほか、ファイルの共有やチャット機能を使用することもできます。

『TeamViewer』と Slack の機能連携は、デバイスを問わないウェブファーストのアプローチに基づいており、アクセシビリティとシームレスなやり取りをより向上させることとなります。リモート支援する側は、アプリをインストールすることなく、すぐにリモートアクセスと AR ベースのサポートを提供することができます。

チームビューワーのビジネス開発担当エグゼクティブ・バイス・プレジデントであるアルフレッド・パトロン (Alfredo Patron) は次のように述べています。「リモートワークは、コラボレーションとサポートを実現する上で鍵となります。Slack は過去数年にわたり、アジャイルチームのコラボレーションにおける新たなスタンダードを確立し、大手企業だけでなく多くのコミュニティでも活用されています。『TeamViewer』のリモートアクセスと AR サポート機能が Slack に組み込まれたことは、ユーザーにとって、場所やデバイスを問わず連携し合い生産性を高めるオプションが、より増えたこととなります」。

この新たな連携機能を活用するためには、組織は Slack のライセンスと互換性のある『TeamViewer』のサブスクリプションが必要になります。詳細については、[こちら](#)をご参照ください。

###

TeamViewer (チームビューワー) について

チームビューワーはリモート接続プラットフォームのグローバルリーダーとして、デジタル化を推進するあらゆる規模の企業を支援しています。リモート接続ソリューションである『TeamViewer』は、PC、モバイル端末、工場の機械やロボットなどのデバイスと人、そして場所や時間を問わず世界のユーザーとの接続を可能にし、セキュリティの高いリモートアクセス、サポート、コントロール、コラボレーション機能がいかなるオンライン上のエンドポイントでも利用可能です。個人向けには無償で提供しており、現在の登録者は約 62 万人。法人は中小企業から大企業まで多様な業種で利用されています。チームビューワーはデバイスの分散化、自動化、ニューノーマルといった環境の変化に柔軟に対応しながら AR、IoT、AI の分野での DX やイノベーションを主導しています。会社設立以来、『TeamViewer』がダウンロードされているデ



バイスは現在 25 億台に達しています。会社設立は 2005 年。本社はドイツのゲッピンゲン、従業員は全世界で約 1,500 名。2021 年度の売上は約 5 億 4,800 万ユーロ。TeamViewer AG (TMV) はフランクフルト証券取引所に上場しており、MADAX 株式指数構成銘柄となっています。TeamViewer ジャパン株式会社は TeamViewer の日本法人として 2018 年に設立されました。日本法人のウェブサイトは <https://www.teamviewer.com/ja/>